

平成 31 年 2 月 21 日（木）

平成 30 年度 学校関係者評価報告書

自己点検報告書に基づき、学校関係者評価委員会において、次のとおり評価した。

《評価委員》

北田委員（きただ治療院） 福末委員（古都治療院） 山内委員（やまうち治療院）
小林委員（学校長） 岩崎委員（事務部長） 松尾委員（本選教務課長）

《評価区分》

5 極めて適切に行われている 4 適切に行われている 3 普 通
2 適切にややかける 1 適切でない NA あてはまらない

評価項目		評価
基準 1 教育理念・目的・育成人材像		
1-1	理念・目的・育成人材像	現代社会のニーズ・動向を的確に捉えながらも理念である慈悲の精神を履修する学習計画がなされ、なおかつ他校より多い授業時間数を確保なされ、より一層基礎の徹底を図られている。また、育成人材像も業界の人材ニーズに適合している。併せて、国家試験合格率も高く、卒後研修など卒業生への取り組みも評価できる。
基準 2 学校運営		
2-2	運営方針	毎年、評議員会、理事会にて承認された事業計画、予算案、事業報告に基づいて適切に運営されている。尚且つ学校関係者評価委員会においての意見・評価を受けられており、よりよい学校運営がなされている。
2-3	事業計画	年度毎の事業計画を定めて、課題解決策をしっかりと検討している。臨床実習協力者が減少している点については、今後更に京都を中心に斯界の先輩方への協力の呼びかけや広報等を充実させるべきと考える。
2-4	運営組織	学内における最高意思決定機関として学校運営会議を設置し、事業計画に基づき、適切に運営を行われているが、運営組織図の作成により、一層の業務分担と責任をもった組織運営がなされるべきであるとする。
2-5	人事・給与制度	適切かつ公平に実施されており、問題ないとする。
2-6	意思決定システム	学校運営会議、教務会議、教員連絡会議といった一連の流れに沿って意思決定がなされ、決定事項も周知されている。

2-7	情報システム	学内 LAN を用いて、業務の迅速化・効率化が図られている。また、不正なアクセスに侵されないよう配慮した情報の共有・伝達が行われている	5
基準 3 教育活動			
3-8	目標の設定	カリキュラム設定、他校に比して充実した授業時間数の確保等、全てにおいて評価できる。また授業では目標、シラバスを用いて单元ごとにより理解を深める努力がうかがえることは大いに評価できる。あま指の実技試験に外部評価委員を導入している点も大変評価できる。	5
3-9	教育方法・評価等	スローラーニングを掲げ、基本である基礎の徹底を図られており、学校関係者評価委員会やアンケートを実施し、よりよい授業のあり方を探求している。また、「経絡治療」などの独自性やアンケートを用いた授業評価・改善、充実した授業時間数等も評価できる。	5
3-10	成績評価・単位認定等	担当者による試験難易度については引き続き検討されればよい。むしろ多岐にわたる人間の評価とも考えられるので、いろんな側面から評価されるメリットもあると考える。学会の発表や成績を保証人まで通知できていることも評価できる。	4
3-11	資格・免許の取得の指導体制	免許取得に向けた授業体制、国家試験対策等のフォローアップシステムが構築されていることは評価できる。国家試験不合格者に対して、引き続きフォローを行っていただきたい。	5
3-12	教員・教員組織	重厚な布陣の教員組織を構築されている。また、学会発表等もなされており、教員の資質向上の取り組み姿勢は評価に値する。	5
基準 4 学修成果			
4-13	就職率	斯界の状況を鑑みれば、今後の動向調査は重要な位置付けになるため、免許取得後の動向調査は関係団体との協力なども視野に入れるべきである。また、引き続き、鍼灸科の就職率を高める取り組みも検討すべきである。就職マッチングセミナーの周知は今後必要である。機能訓練指導員の特別講義は現状ニーズにマッチしており、評価に値する。	4
4-14	資格・免許の取得率	全国平均以上の国家試験合格率がキープされていることは大いに評価できる。これは今後患者さんへ(学生の間は臨床を受けられる方も含む)よりよい治療を提供できることに繋がると考える。引き続き合格率 100%を目指してもらいたい。	5
4-15	卒業生の社会的評価	斯界の関係団体にも理事等を輩出し、また多くの患者さんを救う治療師として活躍されていることは大変評価できる。同窓会「洛仁会」の活動については、今後更なる充実を期待する。	4

基準 5 学生支援			
5-16	就職等進路	就職マッチングセミナーや説明会の充実が今後の課題である と考える。鍼灸科の就職率を高める取り組みも引き続き検討すべき である。既卒の先輩方から意見を頂くために外部講師を取り入れ ながら運営がなされていることは評価に値する。	4
5-17	中途退学への対応	現代社会は社会の多様性から入学時の志から目標が変わる生徒 や成績不振で不登校になりがちな生徒がいるが、本校はフォロー アップシステムが構築されている。また、奨学金制度や退学理由 の調査等も大変評価できる。	5
5-18	学生相談	顔と顔が見える状態で連携が図られている。今後、外国人労働者 問題などを踏まえ、必要に応じて留学生に対する相談体制を整備 すべきであると考えている。	5
5-19	学生生活	奨学金制度や健康診断等、生徒への支援がきちんと行われている と評価する。また、学術大会の表彰等も評価に値する。	5
5-20	保護者との連携	保護者・保証人との連携もできており問題はないと考える。	5
5-21	卒業生・社会人	年 2～3 回の卒後研修の実施は大変評価できる。回数、内容につ いては更に充実することを期待する。同窓会「洛仁会」の活動に ついては、今後更なる充実を期待する。	4
基準 6 教育環境			
6-22	施設・設備等	卒後の対応の為に新しい医療器具を導入するなど設備の充実が 図られている。また、衛生面においても理想的な清潔さが保たれ ている。	5
6-23	学外実習、インターンシップ等	京都府立盲学校との手技交換会、もぐさ工場や鍼工場見学、解剖 実習見学など、学外実習が充実しており、大変評価できる。	5
6-24	防災・安全管理	避難場所、避難経路等の避難訓練は周知徹底されているが、付近 の住民との連携を図ることでより一層の一体感を構築できると 考える。学内の落鍼等については、インシデント・アクシデント レポートの作成により効果がみられており、評価できる。	4
基準 7 学生の募集と受入れ			
7-25	学生募集活動は、 適正に行われているか	SNS など積極的な情報発信など評価できる。しかしながら、今後 の人口統計をみるとある一定の限界点がでてくることも予期し ながら学内の生徒数を考えることも重要である。又、高等学校に 対しては鍼灸・マッサージの魅力のより一層のアピールを期待し たい。	4
7-26	入学選考	適正におこなわれている。学科試験での選考は致し方ないが、人 格を評価する部分もある方がより豊かな治療師を輩出できる部 分もあると考える。	5

7-27	学納金	適切な処理がなされている。	5
基準 8 財務			
8-28	財務基盤	適切な処理がなされている。	4
8-29	予算・収支計画	適切な処理がなされている。	4
8-30	監査	適切な処理がなされている。	4
8-31	財務情報の公開	適切な処理がなされている。HP での掲載については、項目のみを掲載（単年度の財務状況の記載は必要なし）し、その財務状況については申請の上、閲覧できるようにすればよいと考える。	4
基準 9 法令等の遵守			
9-32	関係法令、設備基準等の遵守	関係法令を遵守し、適正な学校運営が行われている。	4
9-33	個人情報保護	管理を厳重に行っており、適切に行われている	4
9-34	学校評価	評価制度の導入、理事会、評議員会等のそれぞれで評価出来るような体制が構築されている。ホームページ等での学校関係者評価の結果の公表について今後検討が待たれる。	5
9-35	教育情報の公開	公開出来る範囲で公開されており問題はないが、今後必要に応じて更に情報を公開し、認知度の向上や学校のアピールに繋げるべきであると考え。	5
基準 10 社会貢献・地域貢献			
10-36	社会貢献・地域貢献	臨床実習協力者の増加は今後も期待されるところである。はりきゅうマッサージの無料体験の日を設けるなど、地域社会へアピールできる日の設定も検討すべきと考える。市民公開講座を兼ねた卒後研修の実施は評価に値する。	5
10-37	ボランティア活動	積極的にボランティア活動支援が行われていると評価する。今後もボランティア活動の場の増加を期待したい。また、昨今の災害事情等を勘案し、大規模な災害がある場合などに関係団体と連携し、斯界と協力出来るような体制の構築を期待する。	4